日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所　日本産業衛生学会九州地方会
〒807-8555
北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医実務研修センター
TEL (093)691-7171
FAX (093)692-4590
発行責任者：地方会長　大久保利晃

（題字　倉恒匡徳　筆）

随　想

日暮れて道遠し

日本産業衛生学会名誉会員　三　浦　　創
（熊本大学名誉教授）

今迄、40数年に亘って私は衛生・公衆衛生の教育・研究の分野に従事して来たが『そんな事は分り切った事で、そんな事も知らないのか』と人に言われる様な事が数多く在るものだと痛感している。そして『本当はどうなっているのだろう？』と随分と悩む事が多い。書店の店頭には各分野に関係して『常識の嘘』なる書物が多数並んでいるが、他人の指摘した事例はさておき、私自身もこの種の事実によく出会っている。

京大を卒業して研究室にいた頃（昭和28～35）、京阪神地域の若手の衛生・公衆衛生研究者が１～２ヶ月毎に研究談話会を持っていた。或時、話題が『疲労』に集まり、測定法や評価法に就いての議論が交わされた時、阪大衛生の故梶原三郎教授が、ポツリと一言、『皆さんは色々と言われますが、疲労ってそんなに悪いもんなんですかね？』と発言され、頭を一撃された様な思いをした。恐らく先生は「生態学的思考で、人間の環境系に対する生理的適応を考えて居られ、小手先の技術で物事を論ずるより、物事の本質をもっと考えるべきだ」と言う事を示唆されたのでは無いかと思った。

その後、私は主に重金属中毒分野の仕事をして来たが、この梶原先生の一言は頭から離れなかった。特に、各種の重金属の生体内挙動に関しては、何故、夫々の金属には夫々の標的臓器が在り、夫々特異的な作用をするのかという事に就いては、未だに全く不明で、不思議でならない。

分子生物学、免疫学、臨床検査学、電算機による統計学的手法などが急速に進展した今日でも、未だに『老化』の本質をどう説明するのかに就いては定説は無い。となると、在り来たりの事ではあるが、私は今一度、私なりに『健康な人生とは？』という事を真剣に考え直して見ようと思っている。何時になったら考えが纏まるのかは分からないが.....！

第73回日本産業衛生学会（北九州）のご案内

学会長：大久保　利晃（産業医科大学副学長）
受付場所および受付時間：
　４月23日(日)　11:00－17:30　北九州国際会議場
　　24日(月)　8:00－17:00　西日本総合展示場新館
　　25日(火)　8:00－17:00　　〃
　　26日(水)　8:00－13:00　　〃
　特別研修会受付は
　４月23日(日)　8:00－ 9:00　北九州国際会議場
日医認定産業医研修単位：
　23日　特別研修会　６単位
　26日　メインシンポジウム「働くということ」
　　西日本総合展示場Ａ会場　10:00－12:30
　　６単位　9:00より会場入り口でシール配布
ウエルカムレセプション：
　24日　17:30－19:00　北九州国際会議場イベントホール
懇親会：
　25日　18:00－20:00　リーガロイヤルホテル小倉
　優秀ポスター表彰（３点程度を選定）が席上あり
　学会長より表彰状および記念品を授与

平成12年度日本産業衛生学会九州地方会開催の御案内

学会長：竹本泰一郎（長崎大学教授）
会　期：平成12年6月16日(金)～6月18日(日)
会　場：長崎大学医学部ボンベ会館、視聴覚セミナー室
日　程：
一般口演　17日　9:00-12:00, 15:00-17:00
　　18日　9:00-12:00
自由集会　16日　18:00-　17日　19:00-
総　　会　17日　13:00-14:00
評議員会　17日　12:10-
理事会　16日　18:00-
懇親会　17日　17:00-
特別講演：　17日　14:00-
長崎大学医療技術短期大学部　太田　保之教授
「心的外傷後ストレス障害について」

長崎は今年、日蘭友好400周年記念イベントが多くあり、宿泊が混雑するかと思います。そのため宿泊等のご予約は各自でお早めにご手配ください。

皆様多数のご参加、ご発表くださいますようお願い申しあげます。何か不明な点などありましたら、学会事務局までご連絡下さい。

○学会事務局
長崎大学公衆衛生学教室
〒852-8523　長崎市坂本町1-12-4
担当　永田耕司、受付　林田昌子
ファックス　０９５－８４９－７０６９
電　　話　０９５－８４９－７０６７
メ　ー　ル　sangyou@ph.med.nagasaki-u.ac.jp

研究会・研修会その他案内

○第12回産業神経・行動学研究会

代表世話人：橋本和夫、荒記俊一、竹内康浩
日　　時：平成12年7月8日－9日（土・日）
会　　場：コーワパークホテル湯布院倶楽部
　　大分県湯布院町大字川上2956-1
シンポジウム：
「産業中毒の先駆的研究：その発想の原点（仮題）」
特別講演：「産業職場における精神環境」
　　小杉正太郎先生（早大文学部教授）（予定）
担当世話人：三角順一大分医大教授
連絡先：大分医科大学公衆・衛生医学第二講座
　　TEL　097(586)5742　FAX　097(586)5749

○労働者の生涯健康の支援を考える研究会
日　時：平成12年9月9日(土)　予定
会　場：未定
連絡先：九州電力福岡支店　森中恵子
　　TEL　092-726-1623

○産業看護研究会
日　時：平成12年11月25日(土)
会　場：未定

○健康管理研究会
会期・会場未定

（いずれも3月末日現在）

外国人会員の声

卒業にあたって

佐賀医科大学地域保健科学教室
張　　久松

1995年10月に、国費留学生として、日本の土を踏みました。

私のいる佐賀医科大学は非常に美しくて、静かな環境の大学です。赤いレンガの校舎と、緑色の木と四季折々の花とが映り合って、本当に勉強にいい所です。

来日までに、産業保健関連の研究をしていましたが、ほとんど生化学のレベルに限って、行っていたのです。大学院に進学してから、分子生物学技術を用いて、化学物質による発がんリスクの評価のバイオマーカーに関する勉強と研究に触れ始めました。全く馴染みのない分野ですから、最初は少し不安を感じましたが、幸いなことに友国教授はじめ、市場先生および教室の方々が非常に熱心で、いろいろご指導してくださいました。今年3月に、無事学位審査にパスして、4年間の博士課程を修了しました。

故郷の沈陽市(*)は中国で最大の工業都市を誇る街ですが、様々な職場と環境問題を抱えています。中国にいた時に、仕事の関係で、数多くの工場をまわっていたものです。

中には、設備や技術の進んだ企業もあれば、作業者が高濃度の有害物質に曝されている所も少なくありません。産業保健スタッフの主な仕事は、まだ作業環境管理や有害物質の生物学的モニタリングに止まっています。日本滞在中、トヨタ自動車や住友金属などの一流企業を見学するチャンスにも恵まれました。中国と違って、作業環境は既に問題にならなくて、従業員のメンタルヘルスやストレス対処などがメインな仕事ではないかと思います。中国の現状は日本の20年前に似ているそうですが、日本企業はいかに現在までたどりついたのか、また、産業保健スタッフがどの様な役割を果たしてきたのか、などの事に強い関心を持っています。

*遼寧省 省都 瀋陽：編集注

本部理事会報告及び地方会理事会報告

本部理事会報告

本年３月４日(土)に平成11年度第４回理事会が行われた。

目下懸案の問題は役員選挙制度の改訂で、これは「公益法人の指導監督基準」に即した定款改正の中核をなすものである。年余の検討を経て、理事へのアンケート結果に基づき、①民法上の会員を代議員とする代議員制の導入と、現行の評議員制の廃止、②理事の選出方法については、現行の地方会別選出を行うことが了承され、修正案を次回総会に提案することになった。この定款改正は、公益法人としての基準にマッチしたものとし、任期２年の役員選挙制度を合理化し、機動的な執行機関と審議機関を選出しようとするものである。なお、役員の選出に間接選挙を導入し、まず、正会員が代議員を選出し、代議員のなかから理事を地方会別に選出し、理事の互選により理事長と副理事長を定めようとするものである。なお、理事と代議員の定数については、現行とほぼ同程度に落ち着く見込みである。

産業衛生技術部会（仮称）設置準備会（発起人代表：中明賢二氏）の設置が昨年10月の理事会で了承されている。産業医部会、看護部会に続く第３番目の部会として、その発展が期待される。なお、担当理事には田中勇武氏（産業医大）が指名された。また、労働安全衛生マネージメントシステムの労働省提示などを受けて、本学会に産業保健活動評価委員会の準備委員会が設置された。担当理事は小木和孝氏（労研）である。なお、倫理委員会で検討中の「産業保健専門職の倫理指針」がまとまり、次回総会に報告することになった。

また、第75回日本産業衛生学会の候補地として、神戸（住野公昭企画運営委員長）が了承された。

（二塚　信理事）

九州地方会理事会報告

平成11年度第２回九州地方会理事会が、平成11年12月25日(土)午後２時より福岡産業保健推進センター（福岡市）の会議室で、理事10名、監事２名、幹事２名の出席のもと開催された。議題は、

１．平成11年度第１回理事会議事録要旨（案）の確認について
２．平成11年度事業及び決算の中間報告について
３．九州における産衛活動調査費決算について
４．平成12年度事業計画及び予算（案）について
５．平成12，13年度地方会学会の開催について
６．平成12年度第73回日本産業衛生学会開催について
７．地方会各理事分掌事項について
８．その他

であった。

なお、第73回日本産業衛生学会は大久保利晃学会長のもと平成12年４月24日－26日の期間、北九州国際会議場及び西日本総合展示場（北九州市小倉北区）で開催予定である。

平成12年度日本産業衛生学会九州地方会は竹本泰一郎学会長のもと平成12年６月17－18日の期間、長崎大学医学部ポンペ会館（長崎市坂本）で開催予定である。さらに、平成12年度に九州地方会で計画されている研究会は、健康管理研究会、産業看護研究会、労働者の生涯健康の支援を考える研究会などがある。

（地方会事務局）

日本産業衛生学会指導医紹介

今回は180番から231番の方にお願いしております。（以下、登録番号順に紹介）

労働福祉事業団鹿児島産業保健推進センター所長
松　下　敏　夫（指導医登録番号181）

私の産業保健との関わりは、昭和34年に大学院生として名大衛生学講座〔井上俊教授〕に所属して以来、熊大公衆衛生学講座〔野村茂教授〕、鹿大衛生学講座を経て、定年退職後、平成11年4月から鹿児島産業保健推進センター所長に就任して現在に至るまで、40余年になり、現在の学会の発展を見ると、感慨もひとしおである。

ところで、「指導医」に関しては、「鹿児島県内で1名も指導医がいないと困る」とのことでなったのであるが、現在までの実績は、1名の方を一定期間お世話した以外は、「開店休業状態」である。

「ものづくりは人づくり」といわれるように、物事を発展させるためには、人づくりが基本である。産業保健の若手人材育成のために必要とされる学会指導医については、認定医の身分保障など、定着のための環境整備が不可欠であろう。

福岡大学 医学部 衛生学教室
畝　　博（指導医登録番号200）

岡山大学を卒業後直ぐ、保健と医療を一体化した活動がしたいということで高知県の僻地中核病院に赴任しました。そこで若い働き盛りの男性に指が白くなる人や肘関節の痛みを訴える人が多いことに気付き、地域で振動障害（白ろう病）検診を始めたのが産業衛生の道に入るきっかけになりました。

振動障害に罹る人の多くが出稼ぎ労働者でした。その中でも、トンネル掘りを専門とする出稼ぎ労働者は振動障害とともに、私が今まで見たこともないような重症のじん肺に侵されている人が多くありました。

こうした出稼ぎ労働者はじん肺法や振動障害に対する検診が義務化されているにも拘わらず、検診はほとんど受けておらず、「労働力の使い捨て」という言葉がぴったりの当てはまるような状況でした。

私が出稼ぎ労働者のじん肺と振動障害に取り組んで、すでに四半世紀経ちました。この間に職場の労働環境は飛躍的に改善され、産業構造も大きく変わりました。産業衛生学会の関心もじん肺や振動障害からメンタルヘルスなどに移ってきており、私の出番は最近どんどん少なくなってきています。

私は産業衛生関係の免許証として労働衛生コンサルタント、作業環境測定士、産業衛生学会指導医の3つ持っていますが、現在はいずれも刀の鞘の中で錆付くにまかせているといった現況です。

福岡大学名誉教授（衛生学）
江　崎　廣　次（指導医登録番号202）

昭和29年、久留米医科大学卒業と同時に、福岡県衛生部を振り出しに県下の保健所に勤め、保健衛生の第一線で実務に従事しました。その後母校で岡野丈雄先生（公衆衛生）、安部弘毅先生（環境衛生）の両恩師から疫学及び人口学の指導を受けました。

私に産業衛生への関心を向けさせたのは、第38回日本産業医学会（昭和39年、久留米、岡野学会長）の事務局を担当させてもらった事です。学会組織、学会運営及び諸先輩との出会いなど貴重な経験を得て、その後の私の勉強に大変役立ちました。

昭和44年から高松誠教授と一緒に仕事をするようになり、産業医学、特に局所振動障害の調査研究で、林業、石材業関係労働者の健診の教えを受けました。同時に農業労働負担、農村保健問題に取り組んでいました。

昭和49年から福岡大学衛生学教室に移り、産業衛生面では、局所振動障害健診を続け、某鉄工ＫＫの産業医として、作業環境管理及び健康管理に従事し現在まで続けています。なお、福岡労働衛生研究所の非常勤医として、特殊健康診断業務、特に林災防の振動障害健診、一人親方の労災特別加入時健診などをしています。

指導医としての活動は、教室員の指導の他産業衛生関連の講習会での講義をしてきました。現役時に2名の専門医受験資格を済ませていますが、まだ、受験していないようです。平成8年3月大学を退いた後も、産業衛生学会と農村医学会では現役のつもりで頑張っていますので、よろしくお願いいたします。

日本赤十字社熊本健康管理センター所長
小　山　和　作（指導医登録番号206）

私は内科臨床医として熊本大学に勤務するうちに、進行した手遅れ疾病群があまりに多いことを知るにつけ、医師としての無力感を抱き、予防医学の道に進むことになりま

した。

爾来30年、最初は農村保健にとっかかりを持ち、やがて産業衛生に広くかかわるようになりました。

御存知の如く、当時は農業・農村の近代化が叫ばれ、その陰で農薬中毒、農業機械による災害等の職業病が重要なテーマでした。しかし、一方、列島改造の名の下に農村から都市への流出、兼業化、離農、などといった農村の疲弊が深刻になり、三チャン農業と呼ばれる農村生活の変貌は農業従事者の健康障害を次々に引き起こしていきました。

農村医学は本来、職業由来のものと、生活由来のものが複雑にからみあって起こる健康障害が対象になります。

農村保健は当然、小児期より高齢期までの生涯健康管理を考える地域保健を論ずることとなり、厚生省、農水省から県、市町村等の行政と、そしてＪＡの組織と深くかかわりながら活動を展開していくことになりました。

そして、やがて産業医活動を始め、企業、事業所の健康管理の仕事へ比重が移ることになります。

ただ、当初より、有害な作業環境やいわゆる職業性健康障害より、労働者の健康づくりという視点が強いといっていいでしょう。

例えばＴＨＰの考え方に強く賛同し、熊本県ＴＨＰ推進連絡協議会の会長をおおせつかっています。

さて、近年、「集団から個へ」という言い方があります。個を大事にする健康管理は重要な視点ですが、また全体を忘れないようにしたいと思います。木を見て森を見ないでは困るのです。

そして、産業保健と地域保健の連携がこれから必要だと考えます。

日本医師会　副会長
小　泉　　明（指導医登録番号231）

私が医学部を卒業し、産業衛生の分野にとび込んだのは、1950年であった。大げさな言い方をすれば、この道を半世紀歩いてきたことになる。

当初ささやかな経験ではあるが、文部教官助手に任用される直前、ある大手鉱山会社で衛生管理コンサルタントともいえる仕事にかかわった。東京の本社内に小さな机があるものの、毎月１～２回、北海道から九州までいくつもある鉱山・製煉所を歴訪し、作業環境の測定と改善、作業方法の検討、健康管理の充実、等をテーマに視察と衛生管理者のトレーニングにあたるのが私の役目であった。

それは安衛法の制定より20年も早い時期であったから、産業医とは呼ばれなかったが、産業医活動の一部を担っていたことにはなろう。

その後は大学の研究室で産業衛生を専門としたが、歴代の教室主任が産業現場での実践活動を重視されたことの影響を受けて、実験室的な基礎研究をおこないながら、そこに埋没するのではなく、現場に働く人々の健康に役立つことを主眼として、いわゆるフィールド・ワークをつづけた。

平成４年度から７年間、縁あって産業医科大学の学長職をつとめさせていただいた。また、その間に産衛学会から指導医という役をいただいた。現在は日本医師会の学術担当副会長として、学術の振興、医師の生涯教育、医の倫理と生命倫理、日本医師会の医療構造改革とくにその生涯保健事業推進としての健康投資策に微力を尽くしている。

日本産業衛生学会専門医紹介

昨年、専門医を取得された九州地方会のお二方を紹介します。

『はじめまして』

産業医科大学　産業医実務研修センター
清　水　隆　司（専門医登録番号89）

私は、平成３年に産業医科大学を卒業いたしまして、すぐ某企業に専属産業医として勤務しました。企業に就職してから、２年間は企業から病院へ派遣と言う形で、研修医をさせていただきました。研修期間が終了した後は、企業へ戻り、専属産業医として本格的に業務を行いました。

私が、主にやってきたのは健康管理でした。いかに、従業員の皆が「自分の健康は自分で守る」という意識を持って、自分なりの健康づくりに取り組んでくれるよう苦心しました。その中で感じたことは、産業医を含む産業保健スタッフは、従業員を支援する立場であって、健康管理の主役ではないということでした。従業員が主役となってもらうよう、安全衛生委員会を通じて、健康診断結果から見た会社全体の健康実態とその対策について話したり、健康づくりキャンペーンを立ち上げて、社内全体で取り組んだりいたしました。

今思えば、そういうことに対して理解を示してくれた会社の幹部と従業員の方々に、感謝するばかりです。

このような産業医生活を５年ほど過ごした時に、縁あって母校から声をかけていただき、産業医実務研修センターで産業医実務を後輩に教えさせていただくことになりました。

昨年は、産業衛生学会専門医に合格し、専門医としての責任を感じるとともに、産業保健に対して微力ながら貢献しなければと思っているところです。

今後とも、皆様のご指導とご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

『産業保健に燃える闘魂を！』

産業医科大学　産業生態科学研究所
大　和　　浩（専門医登録番号95）

産業医科大学を3回生として卒業し、呼吸器内科に入局しました。臨床医学から産業保健へ方向転換する契機となったのは以下のような理由、1）呼吸器内科研修中に大陰影のあるじん肺患者さんに多く接した、2）派遣先病院の院長代理の嘱託産業医が予想外に面白かった、3）産業保健の研究テーマは社会に直接還元できる、4）産業保健の研究者はユニークな方が多く楽しく仕事が出来そうだった、5）元気に働く人々を対象とした予防医学に貢献できる、からです。

現在所属する労働衛生工学教室で作業環境管理の基礎を学びながら、黒崎窯業の嘱託産業医として、それを実践していく、まさにオンザジョブトレーニングが出来たことは大変貴重な経験となりました。

現在、大学では教室のメインテーマである繊維状物質の吸入毒性に関する研究を継続しております。同時に、日立金属若松工場の嘱託産業医として工場内の作業環境改善、および、事務室や休憩室の最大の汚染物質であるたばこ煙制御（空間分煙）について取り組んでおります。これまでに行った対策事例については、

「煙の漏れない効果的な空間分煙」

(http://tenji.med.uoeh-u.ac.jp/970404/staff/yamato/index.html)

として公開しております。さらに、空間分煙に禁煙サポートと防煙教育を加えた総合的な喫煙対策の有効性についての研究も開始しました。喫煙対策はほとんどの日本人がかかわる問題であり、社会的にもニーズの高い研究テーマです。この喫煙対策は複数の研究機関との共同研究として進めていることから、産業保健分野の多くの研究者や実務担当者と知り合いになることもできました。今後もこれらの研究を楽しく続けていけることを望んでいます。

また、特殊な第3次産業（新日本プロレスリング）の事務員の健康管理も昨年から始めたところです。

専門医に恥じないように、基礎的、現実的な労働衛生工学に関する研究をおこない、現場に応用していきたいと思います。

編集後記

桜花爛漫の候、会員の皆様には益々御健勝にて御活躍のことと拝察いたします。

様々な予想が飛び交い心配されたＹ２Ｋ問題も無事クリアしたとホッと安堵していると、有珠山の噴火、さらに小渕総理の危篤など、平成12年度も平穏と安心を確保できるか予断は許せません。

さて、わが産業衛生学会九州地方会は、4月24日より大久保利晃会長のもと北九州での第73回日本産業衛生学会の開催を待っているところであります。

「産衛九州」も本号をもって7号の刊行となります。これまで主として九州地方における産業衛生活動に係わる人的資源、特に学会指導医、学会専門医の方々を御紹介させて頂き、ほぼ一巡する事が出来たと思います。

次号からは女性会員の活躍、モデルとなる活動内容などもご紹介したいと考えており、自薦他薦を問わず御投稿をお願い申し上げます。

（三角記）

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行　平成12年3月31日

編集正責任者：三　角　順　一（大分医科大学）
編集副責任者：東　　敏　昭（産業医科大学）
編　集　委　員：宵　木　一　雄（大分医科大学）
宵　山　公　治（鹿児島大学）
石　竹　達　也（久留米大学）
市　場　正　良（佐賀医科大学）
畝　　博（福岡大学）
大　村　　実（九州大学）
小　柳　敦　子（日赤熊本健康管理センター）
新　城　正　紀（琉球大学）
永　田　耕　司（長崎大学）
日　笠　理　恵（福岡県市町村職員共済組合）
前　原　正　法（宮崎医科大学）
宮　北　隆　志（熊本大学）
吉　積　宏　治（産業医科大学）
（五十音順）

〈編集事務局連絡先〉
〒879-5593　大分県大分郡挾間町医大ヶ丘1－1
大分医科大学公衆・衛生医学（Ⅱ）講座
（担当：宵木、工藤、園田）
ＴＥＬ(097)586－5742
ＦＡＸ(097)586－5749